秋逍遙

曙星瞬 く恋々と

未明

幽愁はつのるせつなくも されど近づく蕭晨に

しばし悄然と

払暁

対に **晨は来にけり石狩野** < 滴る血の雫

赤紫雲の黄昏

Ē

時雨もやみてあかねさす

情けの露を探求むなりなり 野を流離えば深き哀愁のをながられい 木の葉さやぎぬ涼風に

秋の情趣を知る二十 黒俊馬の長嘶に沈思破れ 原生林の錦 も色寂し

真情の友も 夕陽返し珠玉の如 が翅翎に我が久懐 へと託すかな

蕭然秋の小糠雨 遙かに煙る大平原は だいへいげん

己が運命か斯くあるが きらめく長庚にただ涙

夢幻か人の世は

地平の彼方。 秋の百子夜! の百子夜に我悄然 ハヘ冴星空を

過りて落つる流れ星はである。 ただただ。涙は何故か

熊野芳明 吉田守男君 君 作曲 作歌